

原子力産業新聞

—第564号—

昭和46年2月25日
毎週木曜日発行

1部35円 (送料共)
購読料半年分前金800円
1年分前金1500円

昭和31年3月12日第三種郵便物認可

発行所 日本原子力産業会議

東京都港区新橋1丁目1番13号(東電旧館内)

電話(591)6121(代)

振替東京5895番

多彩な遺業を慕って

葬儀

各界から三千名が参列

原子力界に巨歩を残し 菅原産会長、永眠



社長、同副委員長・松根宗一原産副会長、本田弘敏東京瓦斯会長ほかの手によって、しめやかにとりおこなわれた。葬儀は質素にという故人の遺志により、本堂正面左右は佐藤栄作内閣総理大臣の供花だけ。壇上中央には、従三位勲一等の故人の笑みをたたえた遺影がくっきりと浮かびあがっていた。

同日は午後一時、導師誦経で葬

日本原子力産業会議会長・菅原之助氏は、かねて病氣療養中のごとく、二月十八日午前一時五十三分、心不全のため東京・信濃町の東電病院で逝去された。享年八十七才。

故菅氏の葬儀は二月二十二日午後、東京・中央区の築地本願寺で聖主の菅禮太氏(故人の長男)および葬儀委員長・木川田一隆東電

儀が始られ、木川田一隆東電社長、西田信一科技庁長官、松根宗一原産副会長、新井友蔵同和鉱業社長が、それぞれ弔辞を読みあげ故人の遺徳を偲んだ。このあと喪主の菅禮太氏夫妻ら親戚、関係者の指名焼香、安川第五郎氏ら約七百名の葬儀参列者による焼香が行なわれ、木川田葬儀委員長のあいさつをもって、二時過ぎに葬儀は終わって引き続いて告別式が行なわれたが、すでに同時刻には参列者長蛇の列となっていた。

菅禮之助氏は明治十六年十一月五日、国立第四十八銀行(秋田銀行)初代頭取の菅禮治氏長男として秋田市で生れた。明治三十八年東京高等商業学校を卒るとともに古河合名会社に入り、来一千七七年間にわたって古河鉱業同和鉱業を経営、わが国鉱山源開拓の発展に努めた。

戦前はヤマビとすじー鉱山管という地味な道をあゆんだが戦後には昭和二十一年に潰滅に

参列者の中には故人と交友のある文化人の横顔や、力士の姿もみ

終始時代

文人と、

産業発展の大先達 枯淡の中に厳しさも

葬儀委員長 木川田 一隆

昨年十一月、多年わが国経済発展に貢献されました御功績にり敬一等に叙せられ、本年はた米寿をお迎えになるなど、御親はもとより翁を敬慕する翁周のわれわれ一同は、さらにこの



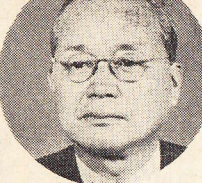
故菅禮之助之靈

リード

も偉大な足跡

た石炭生産の増産体制確立のため、時の首相吉田茂氏の強い要望により石炭庁長官に就任。また、十二年には配炭公団総裁を兼任するなど、終戦直後の石炭不足時に当時から国唯一のエネルギー源であった石炭産業の体制を、早く整備、確立した手腕は高く評価されている。

その後二十九年には故石川一朗
團連会長や松永安左衛門氏など
界首脳の要請で、東京電力会長



木川田一隆氏

[illegible]

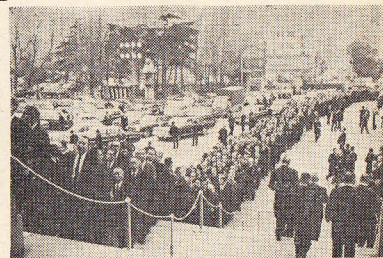
思ひ、鉱業資源の開発に尽せられ、戦後はエネルギー産業全面に大先達として指導的な役割を果たされたのであります。



不川田一隆氏

戦前、戦中、戦後を通じて、常にそのすぐれた御識見により、石炭長官、配炭公団総長として、当時最も重要な資源であった石炭の供給確保に身をもって、なされて以来、電力、ガス、石油、原子力におよぶ広範な領域にわたって、常にそのすぐれた御識見

思ひ、鉱業資源の開発に尽せられ、戦後はエネルギー産業全面に大先達として指導的な役割を果たされたのであります。



故人を偲び、焼香に長蛇の列

に就任。翌三十年電気事業連合会会長を兼任して、いち早く新鋭火力発電所の建設に乗りだし、また、広域運営方式を生みだすなど、電力界の再編と、現在の九電力体制確立の大きく貢献した。氏はまた、わが国の将来のエネルギー資源の確保と科学技術の発展には、原子力開発が不可欠と見出し、昭和三十一年財界の総意を總結して日本原子力産業会議を創設した。このほか原子力研究所、原船事業団、動燃事業団と日本原

見と豊富な御経験とをもち、業界の指導に当たられましたことは、人のよく知るところであります。

しかし翁の御本領は必ずしもひとりの事業界にとどまらず、たもたものではありませんでした。その御胸中にみなぎる高い人間性は、あふれて俳人裸馬として俳誌「同人」を主宰し、その卓越した文芸観は「実朝忌」の設定提唱にもみられることと、詩歌、散文の美術の世界にも大きな影響と足跡とを残されたのであります。その他宗教界、相撲界、ボート関係等およそその関係せられた世界は多岐、多形で、各界とも翁の御恩顧を蒙ること多大なるものがあつたのであります。

翁の個性は若くしてつとに世俗を超越し、飄々乎として枯淡の域にあることで、その実は細心、緻密、事に処しては果斷、自らに対してすぐる厳しみのが、ありました。しかもそのお心の底にはいつも暖い陽気のような人間愛が静かにたたよ、常に人を魅了してやまないものでありました。翁の徳により、またはお力添えによつて、あるいは事業に成功し、あるいは逆境や失意から脱し

子力発電会社、海外ウラン資源会社
の設立に尽力しており、文字通り
原子力産業界のパイオニア的存在
で、わが国エネルギー界にのこ
した足跡はきわめて大きい。

氏にその後も、日本原子力産業協会会長を主に、東京ガス監査役、アラビヤ石油取締役や東京電力、国土総合開発、藤田観光、日本原子力発電、同和鉱業の相談役、また経団連、日経連の顧問をつとめ後進の指導に当たってきた。

このように菅氏は石炭、ガス、石油、電力、原子力というエネルギー界の最先端を常に歩んできた、わが国エネルギー界の大先達。財界の重鎮であった。この功績により四十五年勲一等瑞宝章を受章した。

また同氏は、俳号を「裸馬」と称し、俳句、詩歌に迫りが深く、禪にしたしみ、相撲を愛しむなど、その世界でもっとに知られてゐる。句集「玄酒」「自話菅裸馬集」、隨筆集「うしろむき」「雁わたる」「裸馬翁王千句集」などの著書がある。

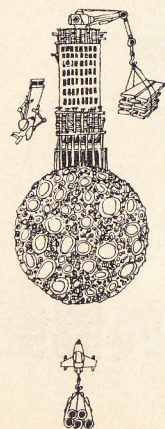
た人々も少なくないと承っており
ます。官界といわず、民間といわ
ず、翁を徳として慕い寄る者の多
かったのもこのためでございます
よう。

われわれは單に事業のうへばかりでなく、人生の偉大なる師父として翁を仰ぎ、翁の大きな御存在をひそかに頼みとして参ったのでございます。

今やエネルギー産業界は世界的な規模において難問が山積しております。現在、翁のごく広い視野と強い実行力を兼ね備えた指導者が突然失ったことは、たんに業界にとまらず、わが国産業界にとっても一大損失であります。慈愛あふれる温容と軽妙洒脱な

お話に接する機会は永久に失われ
ましたが、翁がわれわれに残され
れた遺徳と教訓はいつまでもわれ
われの中に生き、われわれを励ま
し、われわれを導かれるであらう
ことを信じて疑いません。

いまお別するに当って、あり
し日の翁を偲び悲愁胸に迫るもの
がこさいます。半世にわたるおん
賢知に厚く御礼申し上げ、ひたす
ら翁の御愛福を祈念し、これをも
つて弔辞といたします。



もし、それを求められれば、
私たちは、その可能性に挑戦
します。きのうの夢がきょう
は実現する技術革新の時代に
鉄鋼を必要とする分野も、日
まぐるしい変動に直面してい
るのです。すばらしい進展を

ービルを建てる……?!

みせる宇宙開発・海洋開発—
私たちは、未来世紀の要求する
新しい鉄の開発に、限りない情熱
を燃やしつづけます。



新日本製鐵

本社：東京都千代田区大手町2-6-3
(新日鐵ビルヂング)

郵便番号 100
電話 東京(03)(242)4111(大代表)

新刊書御案内

- | | | | |
|--|-----------|------------|------------|
| * Thermal and Hydraulic Analysis of Pressurized Water Reactors. | | | |
| By Tong & Weisman | 1971 : 1 | ca. 300 p. | ¥ 9,600 |
| (American Nuclear Society) | | | |
| * Reactivity Coefficients in Large Fast Power Reactors. | | | |
| By H. H. Hummel & D. Okrent | 1970 | 386 p. | 7,360 |
| (American Nuclear Society) | | | |
| * Nuclear Power. | | | |
| "Institution of Electrical Engineers Monograph Series, 6" | | | |
| Ed. by R. V. Moore | 1971 : 1 | ca. 250 | ca. 5,420 |
| (Cambridge U. P.) | | | |
| * Electronics for Nuclear Particle Counting. | | | |
| Ed. by C. J. Herbst | 1970 : 12 | | pap. 5,940 |
| (Oxford U. P.) | | | |

東京都新宿区角筈1-826 株式会社 紀伊國屋書店 振替東京125575
郵便番号160-91 電話大代表(03)354-0131